

研究活動の変遷 (1989~2014年)

X. 国際連携

厚生省人口問題研究所50周年 (1989年) 以降の半世紀をたどると、国連・国際機関の人口関係会議、JICA など政府開発援助プロジェクト、国際人口学会をはじめとした国際学会、国際研究プロジェクトなどへの参画は、引き続き活発に行われたが、国際的な情報と移動の活発化という時代の変化に応じて、研究所の国際連携活動の種類と量が多くなったように見受けられる。また、国立社会保障・人口問題研究所に統合されてから、海外の著名研究者を招聘して一般公開で毎年一回厚生政策セミナーが行われ、所の刊行物を通じて英語による情報発信も盛んに行われるようになった。組織体制としては、人口問題研究所の1989年時点では人口政策研究部内に国際人口研究室が置かれ、室長1人という体制であったが、その後1996年の社人研統合時から、国際関係部となり3室が置かれ、部長1人、室長3名、研究員1~2名という体制が整えられた。

ここでは人口分野を中心とした国際連携の種類別にその内容を列挙する。

1. 国際連合

1) カイロ国際人口開発会議 (ICPD)

1954年の第1回世界人口会議から人口問題研究所は専門家を派遣しているが、1989年以降に行われた世界的な人口会議は、1994年のカイロ国際人口開発会議であり、研究所からは第1回~3回の準備委員会および本会合いずれも参画している (表X-1)。第1回準備会合では副議長を務めるなど会議の計画・準備に重要な役割を果たし、本会合では河野洋平副総理兼外務大臣を首席代表とする55人の政府代表団の一員として参加し、専門家としての役割を全うした。カイロ会議前後の時期、1986年から2000年までの間、日本はUNFPA (国連人口基金) への最大拠出国であり、名実ともにわが国および人口問題研究所が果たした役割は大きい。

表X-1 カイロ国際人口開発会議 (ICPD) 参加概要

名称	期間	場所	参加者	参照文献
第1回準備委員会	1991/3/4-8	ニューヨーク国連本部	河野稠果	河野 1991, J
第2回準備委員会	1993/5/10-21	ニューヨーク国連本部	阿藤誠	阿藤 1993, J
第3回準備委員会	1994/4/4-22	ニューヨーク国連本部	阿藤誠, 今井博之	阿藤 1994a, J
本会合	1994/9/5-13	カイロ国際会議センター	阿藤誠, 廣嶋清志	阿藤 1994b, J; 厚生省人口問題研究所 研究資料第282号

2) 国連人口開発委員会

国連における人口分野の諮問機関が、国連人口開発委員会（Commission on Population and Development: CPD）である。国連経済社会理事会（ECOSOC）内の下部組織である CPD は、国連人口委員会として1946年に設立され、カイロ国際人口開発会議を契機に1996年の第29回委員会より国際人口開発委員会と名称が変わった。日本は1957年の第10回委員会より委員国として参加し、第24回委員会を除いて、直近の2014年の第47回委員会まで引き続いて委員となっており、人口研・社人研からは政府代表団として毎回参加している。1990年の第26回委員会から現在までの概要は表 X-2 の通りである。

表 X-2 国連人口委員会 / 人口開発委員会（第26回委員会より）参加概要

回次	期間	参加者	タイトル	参考文献
第26回	1991/2/26-3/8	河野禰果（副議長）	1991年世界人口モニタリング報告，1994年 ICPD 準備	河野 1991, J
第27回	1994/3/28-31	河野禰果（議長）	特に難民に注目した世界の人口動向と政策モニタリング	-
第28回	1995/2/21-3/2	阿藤誠	ICPD フォローアップ	阿藤1995, J
第29回	1996/2/26-3/1	阿藤誠・中川聡史	リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス	阿藤・中川 1996, J
第30回	1997/2/24-28	阿藤誠	国際人口移動	阿藤 1997, J
第31回	1998/2/23-27	阿藤誠	健康と死亡	阿藤 1998, J
第32回	1999/3/22-4/1	阿藤誠・佐々井司	人口増加・構造・分布	阿藤 1999a, J
第33回	2000/3/27-31	阿藤誠・石井太	人口・ジェンダー・開発	阿藤 2000a, J
第34回	2001/4/2-6	阿藤誠（議長）・石井太	人口・環境・開発	阿藤 2001a, J
第35回	2002/4/1-5	阿藤誠（副議長）・小松隆一	HIV/AIDS を含むリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	小松 2002a, J
第36回	2003/3/31-4/4	阿藤誠	人口・教育・開発	阿藤 2003, J
第37回	2004/3/22-26	阿藤誠	カイロ行動計画のフォローアップに関する決議案の採択	阿藤 2004, J
第38回	2005/4/4-8	高橋重郷	貧困に焦点をあてた人口，開発と HIV/AIDS	高橋 2005, J
第39回	2006/4/3-7	小島宏	国際人口移動	小島 2006, J
第40回	2007/4/9-13	佐藤龍三郎	人口の年齢構造の変化とその開発への影響	佐藤 2007, J
第41回	2008/4/7-11	高橋重郷・鈴木透	人口分布，都市化，国内人口移動と開発	鈴木 2008, J
第42回	2009/3/30-4/3	高橋重郷	MDGs を含む国際的に合意された目標への ICPD 行動計画の貢献	高橋 2009, J
第43回	2010/4/12-16	佐藤龍三郎	健康，疾病・傷害，死亡及び開発	佐藤 2010, J
第44回	2011/4/11-15	高橋重郷	出生力，リプロダクティブ・ヘルス及び開発	高橋 2011, J
第45回	2012/4/23-27	林玲子	青少年	林 2012, J
第46回	2013/4/22-26	林玲子	人口移動の新動向：人口学的側面	林 2013a, J
第47回	2014/4/7-11	林玲子	ICPD 行動計画の実施状況評価	林 2014b, J

3) 国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) 人口関係会議

世界レベルでの人口開発委員会，国際人口開発会議といった活動と平行して，国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP) という国連地域レベルにおける人口分野の会議・委員会も連動して行われており，人口研・社人研も参画している。アジア太平洋人口会議 (APPC) は「アジア人口会議」として第1回がニューデリーで行われているが，その後ほぼ10年おきに，直近の第6回 (2013年) まで途切れることなく行われており，世界レベルの人口会議は1994年のカイロ会議以降行われなくなったのとは対照的である。各回の概要を表X-3に記した。

表X-3 アジア太平洋人口 (開発) 会議 (第4回より) 参加概要

名称	期間	場所	参加者	参照文献
第4回アジア太平洋人口会議	1992/8/19-27	バリ	河野稠果 (副議長), 阿藤誠	河野 1992, J; IPS 1993, R
第5回アジア太平洋人口会議準備会議	2002/10/29-11/1	バンコク	高橋重郷	高橋 2002, J
第5回アジア太平洋人口会議	2002/12/12-17	バンコク	阿藤誠, 高橋重郷	高橋 2002, J
第6回アジア太平洋人口会議準備会議	2013/5/8-10	バンコク	林玲子	林 2013b, J
第6回アジア太平洋人口会議	2013/9/16-20	バンコク	金子隆一, 林玲子	林 2013d, J

4) その他の国連関係会議

人口研・社人研から参加した，その他の国連主催の世界会議として，2002年にスペイン・マドリッドで開催された第2回高齢者問題世界会議を挙げることができる。阿藤誠所長 (当時) が副代表として参加した (阿藤 2002, J)。

人口推計に関して，国連欧州経済委員会 (UNECE) と欧州連合統計局 (Eurostat) が主催する国際会議が行われており，当研究所から継続して参加している (表X-4)。

表X-4 人口推計に関する国際会議 参加概要

名称	期間	場所	参加者	参照文献
地域人口推計会議	1991/3/16-25	オランダ・フローニンゲン	廣嶋清志	廣嶋 1991, J
人口推計に関する欧州連合統計局・国連欧州経済委員会合同会議	2005/9/21-23	オーストリア・ウィーン	金子隆一, 岩澤美帆	金子 2005, J
	2007/10/8-14	ルーマニア・ブカレスト	金子隆一, 岩澤美帆	-
欧州連合統計局 (Eurostat) ・国連欧州経済委員会 (UNECE) 将来人口推計に関する合同ワークショップ	2010/4/26-5/2	ポルトガル・リスボン	金子隆一, 石井太, 岩澤美帆	石井 2010, J
将来人口推計に関する国際会議	2013/10/29-31	イタリア・ローマ	岩澤美帆, 菅桂太, 是川夕, 福田節也	福田 2014, J

「世代とジェンダー・プロジェクト：GGP」は、ヨーロッパ諸国、米国・カナダ・オーストラリア、日本が参加している、家族の変容、特に親子関係とパートナー関係に焦点を当てた国際比較研究である。2001年に国連ヨーロッパ経済委員会人口部より社人研に協力要請があり、厚労科研費の補助を受けて2002～4年度「『世代とジェンダー』の視点から見た少子高齢社会に関する国際比較研究」、2005～2007年度「国際比較パネル調査による少子社会の要因と政策的対応に関する総合的研究」という継続したプロジェクトにより実施され、その一環で開催された国際会議にも参加している（表X-5）。

表X-5 世代とジェンダー・プロジェクト：GGPに関する国際会議 参加概要

名称	期間	場所	参加者	参考文献
「世代とジェンダー・プロジェクト」に関する第1回非公式会合	2001/9/24-25	ハンガリー・ブダペスト	阿藤誠	阿藤 2001c, J
「ジェンダーと世代に関する国際共同研究」についての国際会議	2003/2/23-28	チェコ・プラハ	白波瀬佐和子, 福田亘孝	福田 2003, J
世代とジェンダー国際プロジェクト第3回IWG会議	2004/5/22-28	ギリシャ	福田亘孝	-
「ジェンダーと世代に関する国際共同研究」についての国際会議	2005/10/5-10	トルコ	福田亘孝	-
「ジェンダーと世代に関する国際共同研究」についての国際会議	2007/1/18-20	スロベニア・リュブリャナ	福田亘孝	福田 2007, J

エイズに対する国際社会の反応は1990年代から本格化し、WHOやUNAIDSが主催・共催する国際エイズ会議に、当研究所から参加している（表X-6）。

表X-6 エイズに関する国際会議 参加概要

名称	期間	場所	参加者	参考文献
第10回国際エイズ/STD会議	1994/8/7-12	横浜市	高橋重郷, 稲葉寿	稲葉 1994, J
第6回アジア・太平洋地域国際エイズ会議	2001/10/4-11	オーストラリア	小松隆一	-
第14回国際エイズ会議	2002/7/7-12	スペイン	小松隆一	小松 2002c, J
第15回国際エイズ会議	2004/7/10-17	タイ	小松隆一	小松 2004, J

その他の国連関係の会議を表X-7に列記した。

表X-7 その他国連主催会議等 参加概要

名称	期間	場所	参加者	参考文献
人口と開発計画国際シンポジウム	1989/12/4-8	ラトビア・リガ	河野稠果	河野 1990, J
ハーグ国際フォーラム	1999/2/8-12	オランダ	阿藤誠	阿藤 1999b, J
人口高齢化と人口減少に対する政策対応に関する国連専門家会議	2000/10/16-18	アメリカ・ニューヨーク	阿藤誠, 勝又幸子	阿藤 2000b, J
南々協力国際会議	2001/9/11-13	東京都港区	阿藤誠	阿藤 2001b, J

出生力に関する国連専門家会議	2009/12/2-4	アメリカ・ニューヨーク	金子隆一	金子 2010a, J
国連統計部ジェンダー統計ワークショップ	2013/4/16-19	千葉市	林玲子, 勝又幸子, 布施香奈	布施 2013, J

2. 政府開発援助 (ODA)

我が国の政府開発援助 (ODA) において、人口分野では家族計画についての支援が早くから行われていたが、1990年代には「人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ (GII)」といった国の方針が打ち出され、保健分野での技術協力も盛んになった。これに応じて、人口研・社人研では、JICA が実施するプロジェクト等への専門家派遣や研究・調査などの事業に参加している (表 X-8)。

表 X-8 JICA プロジェクト等 参画概要

名称	実施年月	内容	実施者
スリランカ人口情報プロジェクト	1990年2月	巡回指導調査	花田恭
メキシコ人口活動促進プロジェクト	1990年10月	短期専門家 (フォローアップ指導)	西岡八郎
ヨルダン家族計画 WID プロジェクト (フェーズI)	1997-2000	国内委員会	阿藤誠 (委員長)
	1998年9月	巡回指導調査	阿藤誠
	1999年10月	終了時評価調査	阿藤誠
ヨルダン家族計画 WID プロジェクト (フェーズII)	2000-2003年	国内委員会	阿藤誠 (委員長)
	2002年1月	運営指導調査	阿藤誠
アルゼンティン人口プロジェクト	1999年3月	短期専門家 (「人口統計特別セミナー」講師)	高橋重郷
	2000年3月	短期専門家 (「人口統計特別セミナー」講師)	鈴木透
	2000年7月	短期専門家 (「人口統計特別セミナー」講師)	阿藤誠
	2005年10月	短期専門家 (第三国研修講師)	高橋重郷
中国インテグレーション・プロジェクト評価調査	2000年1月	評価調査	佐藤龍三郎, 佐々井司
ニカラグア国グラナダ地域保健プロジェクト	2002年7月	運営指導調査	高橋重郷
	2002年8月	短期専門家 (地域医療)	小松隆一
	2004年1月	短期専門家	小松隆一
第二次人口と開発分野別援助研究会	2001-2002年	座長	阿藤誠
スリランカ国保健医療制度改善計画	2003年7月, 11月	調査	泉田信行
タイ国公的医療保険情報制度構築支援プロジェクト	2004年3月		金子能宏
ホンジュラス貧困削減戦略モニタリングシステム人材育成プロジェクト	2010年11月	短期専門家 (人口統計分析・推計手法の講義)	佐々井司

3. 国際学会・国際会議等（国連，ODA，国際人口学会を除く）

国際人口学会はⅨ章で触れているが，それ以外に，アメリカやヨーロッパ等の地域・国別の人口学会（表X-9），老年学会や社会学会など関連分野の学会や定期的で開催されている国際会議（表X-10），その他単発の国際会議（表X-11）に研究所から参加している。これら以外に，調査研究で多くの所員が多くの国に訪れているが，ここでは割愛した。

表X-9 地域・国別の人口学会 参加状況

名称	参加年
アメリカ人口学会	1991, 1992, 1995, 1997, 2000～2010, 2012～2014
ヨーロッパ人口学会	1999, 2003, 2008, 2010, 2014
イギリス人口学会	1999, 2000, 2001, 2004
フランス語圏人口学会（AIDELF）	2002, 2004
人口研究機関国際協力委員会（CICRED）	1993, 1994, 1995, 1997
韓国人口学会	2001, 2002, 2004, 2005, 2011, 2012
台湾人口学会	2000

表X-10 分野別国際学会，定期開催国際会議 参加状況

名称	参加年
アメリカ地理学会	2008
国際老年学会	1992（アジア・オセアニア地域部会），2013
国際社会学会 / 国際社会学機構	1992（家族研究委員会） 1993（人口社会学研究委員会） 1996（人口移動部会，アジア太平洋地域会議） 1998, 1999, 2004, 2014
国際統計協会	1999, 2001, 2003
国際地理学会	2000, 2013
数理人口動態学国際会議	1992, 1995
国際双生児研究会議	1995, 1998
ケトレー講座	1997, 1998, 2000
ハワイ大学東西センターサマーセミナー	1992, 2001
東アジア人口高齢化専門家会議	2000, 2010, 2012
JGSS 国際シンポジウム	2003, 2005
ADB-IOECE-ILO アジアの移民に関する円卓会議	2013, 2014

表X-11 その他の国際会議 参加状況

会議名称	開催年月	参加者	開催地
日中高齢化シンポジウム	1989年4月	阿藤誠	中国・北京
国際シンポジウム「アジア・太平洋地域の潜在力と世界的貢献の可能性」—人的資源の視点から—	1989年11月	小島宏	日本・東京
第5回日本・アセアン統計局長会議	1990年1月	河野禰果	日本・東京
OECD 開発援助委員会	1990年4月	河野禰果	フランス・パリ
メガシティとその将来：人口増加と政策的反応に関するシンポジウム	1990年10月	河野禰果、伊藤達也	日本・東京
構造化人口モデルのための関数解析的方法ワークショップ	1990年11月	稲葉寿	オランダ
アジアにおける国際労働力移動エキスパート委員会	1990年11月	河野禰果	日本・名古屋
ロックフェラー財団主催 国際有識者準備委員会	1991年12月	河野禰果	イギリス・ロンドン
韓国保健社会研究院・エスカップ主催 出生力低下が人口政策・プログラム戦略に及ぼすセミナー	1991年12月	河野禰果	韓国・ソウル
93年国際歴史人口学ワークショップ	1993年1月	小島宏	日本・柏市
アジア太平洋地域の労働力と人口移動国際シンポジウム	1993年4月	若林敬子	アメリカ・ハワイ
世界精神保健連盟1993年世界会議	1993年8月	阿藤誠	日本・幕張市
シンポジウム「人口、都市化、そして地球環境—中国・タイの経験からアジアの未来を展望する」	1996年10月	中川聡史	日本・東京
世界世論調査学会（WAPOR）東京会議	1996年11月	小島宏	日本・東京
ドイツ・日本研究所主催「高齢化と社会政策：日独比較」に関するシンポジウム	1997年10月	小島宏	ドイツ・ボン
ハジェテベ大学人口研究所創立30周年記念人口会議	1997年12月	小島宏	トルコ・アンカラ
第8回日独地理学会議	1998年3月	中川聡史	日本・東京
KIHASA・UNFPA 主催「低出生力国における人口・開発政策に関する国際シンポジウム」	1998年5月	阿藤誠、小島宏	韓国・ソウル
マックス・プランク国際社会法研究所主催シンポジウム「日本とヨーロッパの社会保障」	1998年5月	阿藤誠	ドイツ・ケルン
国際ワークショップ「東南アジアにおける持続可能な都市化、女性の地位・宗教」	1999年3月	小島宏	日本・東京
サンプル調査無回答に関する国際会議	1999年10月	小島宏	アメリカ・ポートランド
ヨーロッパ出生力・家族調査（FFS）国際会議	2000年5月	岩澤美帆	ベルギー・ブラッセル
欠損データを含む統計に関する国際ワークショップ	2000年7月	小島宏	ドイツ・ミュンヘン
第6回アジア性科学学会	2000年8月	佐藤龍三郎	日本・神戸
全米女性学会第22回年次大会	2001年6月	釜野さおり	アメリカ・ミネアポリス
現代社会における家族と出生力変化に関するユーロ会議「欧州の第二人口転換」	2001年6月	岩澤美帆	ドイツ・バッドヘルナリブ
環境保健統計国際会議	2001年8月	小島宏	日本・福岡市
第3回高齢化世界会議東京会合「高齢化と世界経済」	2001年8月	阿藤誠	日本・東京
比較家族史学会20周年記念韓国ソウル大会	2001年11月	小島宏	韓国・ソウル
華人人口と社会経済的研究—2000・2001年度人口センサス・データ分析—国際会議	2002年6月	小島宏	中国・香港

「大学生の性と愛」国際ワークショップ	2002年6月	佐藤龍三郎	イタリア・ミラッ オ
第3回JBICシンポジウム	2002年7月	佐藤龍三郎	日本・東京
標本調査改善国際会議	2002年8月	小島宏	デンマーク・コペン ハーゲン
第1回世界中東研究会議	2002年9月	小島宏	ドイツ・マインツ
HIV感染者数推定及び将来推計方法論に関するワークショップ	2003年3月	小松隆一	スイス
HIV/AIDS感染者数推定と将来推計方法の研修ワークショップ	2003年6月	小松隆一	タイ・バンコク
アジアHIV流行モデルを用いた政策分析ワークショップ	2003年7月	小松隆一	タイ・バンコク
ハワイ大学東西センター・総務省統計局共催21世紀人口セン サス会議	2003年11月	阿藤誠, 高 橋重郷	日本・京都
WHO女性の健康とドメスティック・バイオレンスに関する 多国間調査・研究者会議	2004年4月	釜野さおり	イタリア・ベラジ オ
第6回アジア開発研究フォーラム大会「開発研究を通じたア ジアの凝集性」	2004年6月	小島宏	タイ・バンコク
国際労使関係学会第5回アジア地域大会 (IIRA2004)	2004年6月	小島宏	韓国・ソウル
International Metropolis 第9回大会	2004年9月	小島宏	スイス・ジュネーブ
カナダ日本学会2004年年次大会	2004年10月	小島克久	カナダ・ヴィクトリ ア
アジア中東学会連合 (AFMA) 第5回大会	2004年10月	小島宏	韓国・釜山
シンガポール政府主催2004年家族大会：地域別家族政策フォー ラムならびに家族問題セミナー	2004年11月	阿藤誠	シンガポール
ウィメンズ・ワールズ2005年：第9回国際学術的女性会議	2005年6月	小島宏, 釜 野さおり	韓国・ソウル
ISLSSL 第8回アジア地域大会	2005年10月	小島宏	台湾・台北
第2回EU・日本シンクタンク・ラウンドテーブル	2005年11月	小島宏	
OECD主要国の低出産対策動向と効果性評価のための国際 会議	2005年12月	鈴木透	韓国・ソウル
第3回時空間モデリングに関する国際ワークショップ (METMA3)	2006年9月	小島宏	スペイン・パンプロー ナ
アジア的特質をもつ国際結婚に関する国際会議	2006年10月	小島宏	台湾・台北
日本・スペイン高齢化シンポジウム	2008年10月	鈴木透	スペイン・サラマン カ
東・東南アジアにおける低出生力とリプロダクティブ・ヘル スに関する国際カンファレンス	2008年11月	佐藤龍三郎, 岩澤美帆	日本・東京
ソウル大学国際学術会議	2010年4月	鈴木透	韓国・ソウル
日中韓による高齢者家庭保健及び公共支援サービスに関する セミナー	2010年4月	高橋重郷	中国・北京
国際将来人口推計セミナー：韓国・中国・日本	2011年5月	金子隆一, 石井太	韓国・ソウル
「人口の日」記念北京市都市人口報告会	2011年7月	鈴木透	中国・北京
東アジアの家族人口学的変動と家族政策に関する国際比較研 究による国際セミナー	2011年8月	鈴木透	日本・大阪, 東京
「高齢化社会における社会政策」に関する国際会議	2011年8月	高橋重郷	カナダ・キングスト ン
第14回経済社会開発国際学術会議 (ロシア・モスクワ)	2013年4月	林玲子	ロシア・モスクワ

Modicod キックオフセミナー	2013年4月	石井太	ドイツ・ロストック
OECD Working Party on Migration (WPM)	2013年6月	是川夕	フランス・パリ
第9回社会保障国際フォーラム（中国・杭州）	2013年8月	小島克久	中国・杭州
OECD 移民専門家年次会合（SOPEMI）	2013年11月	是川夕	フランス・パリ
オックスフォード大学日産日本研究所セミナー	2014年1月	岩澤美帆	イギリス・オックスフォード
OECD 地域開発政策委員会専門家会合	2014年4月	金子能宏, 小島克久	フランス・パリ

注：上記会議の詳細は、『人口問題研究』に研究活動報告として、おおむね会議開催後の号に掲載されている。

4. 組織的な国際共同研究

25年間を振り返ると、外国の関係諸機関・研究者とは、国連など国際機関や、国際学会を通じて、個別の研究者ベースで研究交流を行っていたが、社人研として2009年12月に韓国保健社会研究院（KIHASA）と研究交流に関する協定を結ぶなど、人材や情報の組織的な交流を図っている。近年ではフランス国立人口研究所（INED）およびマックスプランク人口研究所（MPIDR）による「死亡率の多様化と死因（MODICOD）」プロジェクトに参画したり（石井 2013, J）、中国社会科学院との合同ワークショップを定期的で開催しており（鈴木 2014b, J）、今後、国外機関と双方向の組織的な関係構築が進むことが見込まれる。

国際比較研究、地球規模課題に関する研究プロジェクトを多く行っているが、研究プロジェクトについては第八章に記している。

5. 国際的な情報発信と広報

国立社会保障・人口問題研究所に統合されて以来、毎年一回、一般公開の厚生政策セミナーを開催しており、第18回までは、偶数回に人口分野に関するテーマを取り上げ、海外の著名研究者を招聘し講演およびパネルディスカッションを行っている（表X-12）。

表X-12 厚生政策セミナー（人口分野）開催概要

回次	開催年月日	テーマ	海外招聘者
第2回	1997/2/15	少子化時代を考える	キャサリーン・キアナン, ジャン・クロード・シェネ
第4回	2000/3/14	21世紀の家族の形	ロン・レスタギ, ピーター・マクドナルド, ナンシー・フォルバー
第6回	2002/1/29	地球人口100億の世紀	ペーシェンス・ステイーブンス, ダーク・ヴァンデカー
第8回	2003/12/16	人口減日本の選択	マーラ・アシス, マイケル・タイトルバウム
第10回	2006/1/17	超少子高齢・人口減少社会の課題	-
第12回	2007/12/12	超少子化と家族・社会の変容	フランチェスコ・ビラーリ, ピーター・マクドナルド
第14回	2009/12/22	長寿革命	ジョン・ウィルモス, 堀内四郎

第16回	2011/10/14	東アジアの少子化のゆくえ	-
第18回	2013/10/31	国際人口移動の新たな局面	グレアム・ヒューゴ

また、海外の研究者が来日した機会を利用して、研究所内の会議室にて、一般公開の特別講演会（当初はミニカンファレンスと称していた）を行っている。海外からの来訪者も多く受け入れ、必要に応じて日本の人口・社会保障事情についてのレクチャーやワークショップを開催している。

機関誌『人口問題研究』掲載の論文には、1967年4月刊（第102号）より英文要旨が付記されるようになったが、英文のみの研究所刊行物として、*Review of Population and Social Policy (RPSP)* が1991年度（No.1）から2000年度（No.10）まで毎年一回刊行された。その後経費削減のあおりを受けて紙版であった *RPSP* は廃止され、Web ジャーナルとして *The Japanese Journal of Population* が2001年度（The Special Issue）から2011年度（Vol.10）まで、ほぼ毎年一回のペースで Web 刊行された（社会保障分野は *The Japanese Journal of Social Security Policy*）。2012年度より、研究所刊行物の整理統合が図られ、従来日本語のみであった『人口問題研究』に英文論文も掲載可能とし、Working Paper や Discussion Paper の刊行を活性化し、Web 上での英語発信を進めることとして、Web Journal は休刊とされた。

6. 長期国際派遣

3か月以上の長期国際派遣は表X-13の通りである。

表X-13 長期国際派遣

期間	派遣先	研究テーマ / 派遣先	研究者名
1993年8月10日 ～1995年8月9日	アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校	家族・親族の数理人口学的モデルとその応用に関する共同研究	鈴木透
2001年10月26日 ～2002年9月30日	アメリカ	加齢率パターンに関する数量的研究	金子隆一
2002年9月18日 ～2003年3月20日	アメリカ	「少子化の新局面に対応する出生率分析モデルの開発と要因分析」調査研究	岩澤美帆
2005年3月 ～2008年12月31日	スイス・ジュネーブ	WHO（世界保健機関）	小松隆一
2007年7月29日 ～2009年8月31日	アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校	「先進国における長寿と死亡研究」に関する共同研究	石井太
2008年7月24日 ～2010年7月31日	アメリカ・ウィスコンシン大学マディソン校	「日本における第二人口転換」に関する共同研究	岩澤美帆

（林 玲子）